

往診とは・・・

病気や障害があり、歯科医院への来院困難な方に対し、歯科医師・歯科衛生士が直接施設へ出向き、可能な治療と口腔ケアを行い歯科医療と施設との連携のもと口腔の健康管理につとめる。

目的

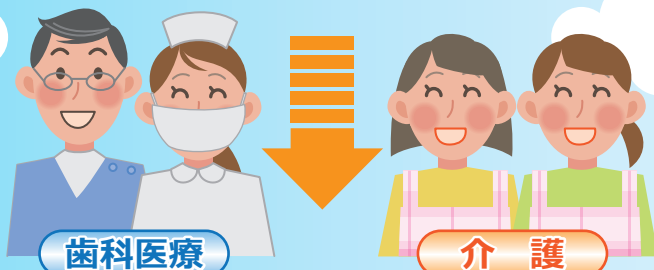
施設利用者の口腔環境の向上

(QOLの向上)

(Quality of Life = 生活の質)

職員の口腔への意識の向上

口腔内の問題を発見し私達になげかけてくれる存在(スタッフ・家族)



専門性の発揮

歯科医療と介護との連携体制の構築は急務である

往診での取り組み

- 1 往診先のスタッフ間とのコミュニケーション(患者様の情報共有)
- 2 入居者・そのご家族とのコミュニケーション(様々な方がおり、なかなか口を診せていただけない為、まず仲良くなることからスタートします。)
- 3 スタッフへの口腔ケアの重要性と必然性について説明
- 4 実際の指導方法(スタッフへの)可能であればご本人にまず歯ブラシを持たせる
- 5 自立されている方への掃除指導+スタッフの仕上げ磨き
- 6 ドライマウス・舌疾患への対応



グッズ

・アクアバランス・舌ブラシ
・コンクール

- * 誤嚥性肺炎の予防
- * リハビリ的な要素
- * 食べる、話すことの重要性
- * 基本的な機能の低下の向上
- * 職員とご家族とのコミュニケーション

往診先のスタッフの声

口腔内ケアに来ていただけるようになってからスタッフの意識が高くなり自立している患者様の口腔ケア(仕上げ)も進んで行うようになってきた。

会議(ミーティング)で口腔内の話題が出るようになった。

先生と同じように口腔ケアを行うとお口を開いてくれる患者様が増えた。

嫌がる(歯ブラシ)患者様が減った。

患者様だけでなく、そのご家族の方とのコミュニケーションが取れるようになった。

往診で変わったこと



「今度いつくるの?」「また来てね」という声が増えた。



笑顔でむかえてくれたり、患者様から会話が增え、コミュニケーションをとれるようになった。

平成27年4月から往診をスタートし、1年間である施設で入居さんの誤嚥性肺炎での入院ゼロ!!